

統合因素に対して、Mindsの検索式により検索した結果、RCTが行われていたのは、ヨガ治療、太極拳治療、マッサージ治療、気功治療、食事治療、温泉治療2となった。2次スクリーニング後、ヨガ治療、太極拳治療、気功治療、マッサージ治療、食事治療、温泉治療2となり、解析を行った。

□ ヨガ治療 4-6、4-

7を行ったが、同じ対照群、同じアウトカムがないため、MAは行えなかった。全体的にはFIQや痛みの評価で有効の報告が認められる一方で、無効の報告もあり、一定の見解は難しい(詳細は4-8ヨガ参照)。

□ 太極拳治療 4-6、4-

7を行ったが、同じ対照群、同じアウトカムがないため、MAは行えなかったが、全体としては痛みや睡眠に対して有効である可能性がある(詳細は4-8太極拳参照)。

□ 気功治療 4-6、4-

7を行ったが、同じ対照群、同じアウトカムがないため、MAは行えなかったが、全体としては、痛み、FIQ、BDIなどで有意差が認められた。しかし、気功療法の方が様々なことから解析は難しく、同じ介入方法での報告が待たれる(詳細は4-8気功参照)。

□ マッサージ治療 4-6、4-

7を行ったが、同じ対照群、同じアウトカムがないため、MAは行えなかった。全体としては、痛みで有効の報告が多い一方、うつや睡眠に対しては、有効 無効の報告が散在している(詳細は4-8マッサージ参照)。

□ 食事治療 4-6、4-

7を行ったが、同じ対照群、同じアウトカムがないため、MAは行えなかったが、全体としては、痛みや睡眠に対して有効である可能性がある(詳細は4-8食事参照)。

□ 温泉治療 MAが行われていた2014 Naumann J以降の対象となるRCT論文がなかったため、今回は、Johannes Naumannらの「Therapeutic benefit of balneotherapy and hydrotherapy in the management of fibromyalgia syndrome: a qualitative systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials」から引用した(PDF添付)。温泉療法5の研究、177人の参加者で、3のリスクが高い研究と2のリスクが明確でない研究では、最後の治療で痛みと圧痛点数において中～大の低下が見られ中程度のエビデンスが示された(SMD -0.84; 95% CI [-1.36, -0.31]; P = 0.002; I² = 63% and SMD -0.83; 95% CI [-1.42, -0.24]; P = 0.006; I² = 71%)。また、感度解析の後、1つの研究を除いて痛みの影響の大きさが低下した(SMD -0.58; 95% CI [-0.91, -0.26], P = 0.0004 I² = 0)。中程度のエビデンスは、HRQOLの中～大の低下を示した(SMD -0.78; 95% CI [-1.13, -0.43]; P < 0.0001; I² = 0%)。うつ症状においては、重要な証拠は見つからなかった。痛みの改善の小さな効果はフォローアップの期間も維持された(詳細は4-9温泉参照)。

定性的システマティックレビュー R (詳細)

CQ	1	統合医療で線維筋痛症に有効なものは何か
P	線維筋痛症患者	
I	<p>マッサージ療法:</p> <p>Swedish massage therapy (1996、2002、2009)、Connective tissue massage (1999)、 Massage Myofascial release therapy (2011)</p>	
C	<p>Progressive muscle relaxation、Tens、Sham TENS、No treatment or Discussion group、 Magnetotherapy、Lymph drainage</p>	
臨床的文脈	<p>治療に位置づけされる。</p> <p>痛みの評価である VAS では、全てのマッサージ療法は対照群と比較し、明確に有意差が認められた。しかし、Brattberg (1999) は長期的な効果は認められず、90%が疼痛再発とし、FM 患者には有効な治療法がない為、CTM を推奨すべきとしつつ、治療効果メカニズムの研究は更に進める必要があるとした。</p> <p>睡眠の評価では、痛み程の明確さには欠くが、Sunshine (1996)、Field (2002) は対照群と比較し、有意差を認めている。ただ、両論文間でも有意差に開きは見られている (0.005~0.05)。</p> <p>うつ症状等の評価であるでは、Field (2002) では対照群に比して有意差は認められるものの、Sunshine (1996) において有意差は認められていない。</p> <p>論文数が少ないため、現段階では判断できないが、マッサージ療法は、痛みや睡眠、不安やうつ症状改善に対して有効である可能性があるといえる。</p>	

O1	
非直接性のまとめ	対象に問題はないが、マッサージ療法の方法、対照の設定、アウトカムがさまざま、統合的な評価は難しい。
バイアスリスクのまとめ	盲検化、ITT 解析がほぼ行われていない。
非一貫性その他のまとめ	信頼区間は表記されている。
コメント	同一の対照、アウトカムがないため、統合的な定性的 SR、MA は難しく、現時点での評価は難しい。今後の論文数が増えることが期待される。

P	線維筋痛症患者
I	ヨガ: ヨガとマインドフルネス(2010)、ヨガのみ(2012)
C	コントロール(2010、2012)
臨床的文献脈	<p>治療に位置づけられる。</p> <p>線維筋痛症患者の重症度評価であるFIQRでは、Carson(2010)ではヨガとマインドフルネスの介入群は、コントロール群と比較して有意差が改善したが、Carson(2012)では、ヨガ介入群とコントロール群と比較して有意差が認められなかった。</p> <p>精神的健康スコアでは、慢性痛の受容を評価するCPAQ(Chronic pain acceptance questionnaire)においては、Carson(2010)とCarson(2012)の両者ともにコントロール群と比較して有意差が認められなかった。また、痛みのコーピング評価であるVMPCI(Vanderbilt Multidimensional Pain Coping Inventory)では、Carson(2012)で宗教の利用度に関する尺度で有意差が認められた。</p> <p>圧痛点の数では、Carson(2010)で有意差が認められなかった。</p> <p>その他 Carson (2012)ではオンラインサービスによる日記の評価から、痛みの受容に関する尺度で有意差が認められた。また、身体機能の評価として体力テスト(Timed chair rise)では、Carson(2010)では有意に改善したが、Carson(2012)では、有意差が認められなかった。</p> <p>論文数が少なく、著者が同じであることから現時点ではヨガが線維筋痛症患者の症状緩和や痛みなどの改善に対して有効であるかは判断しがたいと言える。</p>

01	
非直接性のまとめ	対象に問題はないが、ヨガの方法などが異なっており、統合的な評価は難しい。
バイアスリスクのまとめ	ITT、ランダム化、コンシールメントの表記がないものがある。
非一貫性その他のまとめ	信頼区間での表記がない。
コメント	同一の対照でないため、統合的な定性的 SR、MA は難しく、現時点での評価は難しい。今後の論文数が増えることが期待される。

P	線維筋痛症患者
I	気功療法: 気功のレッスン(Lynch2012 と Stephens2008)、家庭での気功のエクササイズ(Liu2012)、レッスンと家庭でのエクササイズの両方(Haak2008)、マインドフルネスと気功のレッスン(Astin2003)、気功と身体意識療法(Mannerkorpi2004)
C	待機リスト群(Lynch2012 と Haak2008)、シャム気功レッスン(Liu2012)、エアロビクス(Stephens2008)、授業(Astin2003)、非介入群(Mannerkorpi2004)
臨床的 文脈	<p>治療に位置づけられる。</p> <p>Lynch(2012)では、FIQ・PSQI共に対照群と比較して介入群で有意な改善が見られた。また、Stephens(2008)では、痛みやQOLに関しては対照群が介入群に比べて有意な差があったが、疼痛点には有意差が見られなかった。Haak(2008)では、BDIには対照群に比べて介入群で有意差が見られた。</p> <p>論文数が少ないため、現時点では判断できないが、気功療法は、痛みやQOLに対して多少の効果がある可能性がある。</p>

01	
非直接性のまとめ	対象に問題はないが、気功療法の方法にまとまりがなく、レッスンの場合もあれば自宅でのエクササイズの場合もあり、対照群の設定やアウトカムがさまざま、統合的な評価は難しい。
バイアスリスクのまとめ	盲検化やランダム化に対する詳細な記載は少ない。
非一貫性その他のまとめ	信頼区間での表記が少ない。
コメント	

P	線維筋痛症患者	
I	食事療法: 菜食料理(2000)、ピリドスチグミン摂取(2007、2008)、 体重減少(2012)、クレアチンモノハイドレード摂取(2013)、 ミン酸ナトリウムとアスパラテームの摂取(2014)	食事による グルタ
C	アミノトリプチン摂取(2000)、コントロール(2012、2014)、プラセボ(2007、2008、2013)	
臨床的 文脈	<p>治療に位置づけられる。</p> <p>痛み VASでは、Azad(2000)で菜食料理群がアミノトリプチン摂取群と比較して有意差あり、Mria Y(2014)でグルタミン酸ナトリウムとアスパラテームの摂取群がコントロール群と比較して有意差はない。</p> <p>抑鬱は、Azad(2000)で菜食料理群がアミノトリプチン摂取群と比較して有意差あり、Senna(2012)でも、食事による体重減少群がコントロール群と比較して有意差ありとなった。</p> <p>睡眠の評価であるPSQIでは、Jones KD(2008)でピリドスチグミン摂取群がプラセボ群と比較して、Senna(2012)で食事による体重減少群がコントロール群と比較して、Alves(2013)でクレアチンモノハイドレード摂取群がプラセボ群と比較して有意差ありとなった。</p> <p>FIQでは、Jones KD(2008)でピリドスチグミン摂取群がプラセボ群と比較して有意差はないが、Senna(2012)では食事による体重減少群がコントロール群と比較して有意差がある。</p> <p>論文数が少ないため、現時点では判断できないが、食事療法は、痛みや睡眠に対して有効である可能性がある。</p>	

01	
非直接性のまとめ	対象に問題はないが、食事療法の方法、対照の設定、アウトカムがさまざま、統合的な評価は難しい。
バイアスリスクのまとめ	盲検化、ITT 解析がほぼ行われていない。
非一貫性その他のまとめ	信頼区間での表記が少ない。
コメント	同一の対照、アウトカムがないため、統合的な定性的 SR、MA は難しく、現時点での評価は難しい。今後の論文数が増えることが期待される。

P	線維筋痛症患者
I	太極拳:ヨガスタイルの太極拳(2010)、太極拳(2012)
C	アクティブコントロール(2010)、教育(2012)
臨床的文脈	<p>治療に位置づけされる。</p> <p>線維筋痛症患者の重症度評価であるFIQでは、Wang(2010)、Jones(2012)ともにコントロール群と比較して有意差に改善した。痛みの評価であるBPI(Brief Pain Inventory)はJones(2012)で教育のみを実施した群と比較して、有意に改善した。精神的なコアでは、Wang(2010)でSF-36においてコントロール群と比較して有意差ありとなった。</p> <p>睡眠の評価であるPSQIでは、Wang(2010)でコントロール群と比較して、Jones(2012)で教育のみを実施した群と比較して有意差ありとなった。</p> <p>その他、Jones(2012)では身体機能としての評価において、TUG(Timed get up and go)テストや、身体バランス能力の評価においても教育のみを実施した群と比較して有意差が認められたが、身体的な柔軟性の評価において有意差は認められなかった。</p> <p>論文数が少なく、アウトカムも一致するものが少ないため、現時点では半断できないが、太極拳は、線維筋痛症患者の症状緩和および、痛みや睡眠、一部の身体機能の改善に対して有効である可能性がある。</p>

01	
非直接性のまとめ	対象に問題はないが、太極拳の方法、対照の設定、アウトカムがさまざままで、統合的な評価は難しい。
バイアスリスクのまとめ	盲検化がほぼ行われていない。
非一貫性その他のまとめ	信頼区間での表記が少ない。
コメント	同一の対照、アウトカムがないため、統合的な定性的SR、MAは難しく、現時点での評価は難しい。今後の論文数が増えることが期待される。

P	線維筋痛症		I	温泉療法																																																																													
C	非温泉療法		O	VAS																																																																													
研究デザイン	RCT	文献数	5	コード	Ozkurt 2012 Ardic 2007 Evcik 2002 Yurtkuran 1996 Donmez 2005																																																																												
モデル	ランダム効果	方法	分散逆数による重みづけ																																																																														
効果指標	平均値差	統合値	-0.84[-1.36,-0.31] p=0.002																																																																														
Forest plot	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">Study or Subgroup</th> <th colspan="3">Experimental</th> <th colspan="3">Control</th> <th rowspan="2">Weight</th> <th rowspan="2">Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI</th> <th rowspan="2">Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI</th> </tr> <tr> <th>Mean</th> <th>SD</th> <th>Total</th> <th>Mean</th> <th>SD</th> <th>Total</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ardic 2007 BT-MW</td> <td>4</td> <td>2.17</td> <td>12</td> <td>8.25</td> <td>0.89</td> <td>9</td> <td>12.7%</td> <td>-2.33 [-3.50, -1.17]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Evcik 2002 BT-MW</td> <td>2.7</td> <td>6.1</td> <td>22</td> <td>6.1</td> <td>5.4</td> <td>20</td> <td>22.7%</td> <td>-0.58 [-1.20, 0.04]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Yurtkuran 1996 BT-MW</td> <td>3.7</td> <td>6.26</td> <td>20</td> <td>5.7</td> <td>5.37</td> <td>20</td> <td>22.6%</td> <td>-0.34 [-0.96, 0.29]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Donmez 2005 BT-MW-SPA</td> <td>34.06</td> <td>25.62</td> <td>16</td> <td>63.23</td> <td>22.78</td> <td>13</td> <td>18.8%</td> <td>-1.16 [-1.96, -0.36]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ozkurt 2012 BT-MW-SPA</td> <td>45.25</td> <td>20.75</td> <td>21</td> <td>55.25</td> <td>19.25</td> <td>24</td> <td>23.3%</td> <td>-0.49 [-1.09, 0.10]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Total (95% CI)</td> <td></td> <td></td> <td>91</td> <td></td> <td></td> <td>86</td> <td>100.0%</td> <td>-0.84 [-1.36, -0.31]</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>Heterogeneity: Tau² = 0.22; Chi² = 10.73, df = 4 (P = 0.03); I² = 63% Test for overall effect: Z = 3.10 (P = 0.002)</p> <p style="text-align: center;">-4 -2 0 2 Favours [experimental] Favours [cor]</p>					Study or Subgroup	Experimental			Control			Weight	Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI	Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI	Mean	SD	Total	Mean	SD	Total	Ardic 2007 BT-MW	4	2.17	12	8.25	0.89	9	12.7%	-2.33 [-3.50, -1.17]		Evcik 2002 BT-MW	2.7	6.1	22	6.1	5.4	20	22.7%	-0.58 [-1.20, 0.04]		Yurtkuran 1996 BT-MW	3.7	6.26	20	5.7	5.37	20	22.6%	-0.34 [-0.96, 0.29]		Donmez 2005 BT-MW-SPA	34.06	25.62	16	63.23	22.78	13	18.8%	-1.16 [-1.96, -0.36]		Ozkurt 2012 BT-MW-SPA	45.25	20.75	21	55.25	19.25	24	23.3%	-0.49 [-1.09, 0.10]		Total (95% CI)			91			86	100.0%	-0.84 [-1.36, -0.31]	
Study or Subgroup	Experimental			Control			Weight	Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI	Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI																																																																								
	Mean	SD	Total	Mean	SD	Total																																																																											
Ardic 2007 BT-MW	4	2.17	12	8.25	0.89	9	12.7%	-2.33 [-3.50, -1.17]																																																																									
Evcik 2002 BT-MW	2.7	6.1	22	6.1	5.4	20	22.7%	-0.58 [-1.20, 0.04]																																																																									
Yurtkuran 1996 BT-MW	3.7	6.26	20	5.7	5.37	20	22.6%	-0.34 [-0.96, 0.29]																																																																									
Donmez 2005 BT-MW-SPA	34.06	25.62	16	63.23	22.78	13	18.8%	-1.16 [-1.96, -0.36]																																																																									
Ozkurt 2012 BT-MW-SPA	45.25	20.75	21	55.25	19.25	24	23.3%	-0.49 [-1.09, 0.10]																																																																									
Total (95% CI)			91			86	100.0%	-0.84 [-1.36, -0.31]																																																																									
Funnel plot	コメント:																																																																																
その他の解析	行っていない		コメント:																																																																														
<input type="checkbox"/> メタリグレーション																																																																																	
<input type="checkbox"/> 感度分析																																																																																	

P	線維筋痛症		I	温泉療法																																																																			
C	非温泉療法		O	BDI																																																																			
研究デザイン	RCT	文献数	3	コード	Ozkurt 2012 Ardic 2007 Evcik 2002 Dommez 2005																																																																		
モデル	ランダム効果	方法	分散逆数による重みづけ																																																																				
効果指標	平均値差	統合値	-0.87[-1.82,0.08] p=0.07																																																																				
Forest plot	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">Study or Subgroup</th> <th colspan="3">Experimental</th> <th colspan="3">Control</th> <th rowspan="2">Weight</th> <th rowspan="2">Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI</th> <th rowspan="2">Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI</th> </tr> <tr> <th>Mean</th> <th>SD</th> <th>Total</th> <th>Mean</th> <th>SD</th> <th>Total</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ardic 2007 BT-MW</td> <td>16.08</td> <td>6.02</td> <td>12</td> <td>17.78</td> <td>6.87</td> <td>9</td> <td>23.8%</td> <td>-0.26 [-1.12, 0.61]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Evcik 2002 BT-MW</td> <td>7</td> <td>1.9</td> <td>22</td> <td>13.1</td> <td>3.3</td> <td>20</td> <td>24.7%</td> <td>-2.25 [-3.04, -1.46]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Dommez 2005 BT-MW-SPA</td> <td>7</td> <td>3.25</td> <td>16</td> <td>11.5</td> <td>6.36</td> <td>13</td> <td>24.8%</td> <td>-0.90 [-1.67, -0.12]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Ozkurt 2012 BT-MW-SPA</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>21</td> <td>14</td> <td>7.25</td> <td>24</td> <td>26.7%</td> <td>-0.13 [-0.72, 0.46]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Total (95% CI)</td> <td></td> <td></td> <td>71</td> <td></td> <td></td> <td>66</td> <td>100.0%</td> <td>-0.87 [-1.82, 0.08]</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>Heterogeneity: Tau² = 0.79; Chi² = 19.58, df = 3 (P = 0.0002); I² = 85% Test for overall effect: Z = 1.80 (P = 0.07)</p> <p style="text-align: center;">-4 -2 0 2 Favours [experimental] Favours [cc]</p>					Study or Subgroup	Experimental			Control			Weight	Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI	Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI	Mean	SD	Total	Mean	SD	Total	Ardic 2007 BT-MW	16.08	6.02	12	17.78	6.87	9	23.8%	-0.26 [-1.12, 0.61]		Evcik 2002 BT-MW	7	1.9	22	13.1	3.3	20	24.7%	-2.25 [-3.04, -1.46]		Dommez 2005 BT-MW-SPA	7	3.25	16	11.5	6.36	13	24.8%	-0.90 [-1.67, -0.12]		Ozkurt 2012 BT-MW-SPA	13	8	21	14	7.25	24	26.7%	-0.13 [-0.72, 0.46]		Total (95% CI)			71			66	100.0%	-0.87 [-1.82, 0.08]	
Study or Subgroup	Experimental			Control			Weight	Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI	Std. Mean Difference IV, Random, 95% CI																																																														
	Mean	SD	Total	Mean	SD	Total																																																																	
Ardic 2007 BT-MW	16.08	6.02	12	17.78	6.87	9	23.8%	-0.26 [-1.12, 0.61]																																																															
Evcik 2002 BT-MW	7	1.9	22	13.1	3.3	20	24.7%	-2.25 [-3.04, -1.46]																																																															
Dommez 2005 BT-MW-SPA	7	3.25	16	11.5	6.36	13	24.8%	-0.90 [-1.67, -0.12]																																																															
Ozkurt 2012 BT-MW-SPA	13	8	21	14	7.25	24	26.7%	-0.13 [-0.72, 0.46]																																																															
Total (95% CI)			71			66	100.0%	-0.87 [-1.82, 0.08]																																																															
Funnel plot	コメント:																																																																						
その他の解析	行っていない			コメント:																																																																			
<input type="checkbox"/> メタリグレーション																																																																							
<input type="checkbox"/> 感度分析																																																																							

P	線維筋痛症	I	温泉療法																																																																
C	非温泉療法	O	FIQ																																																																
研究デザイン	RCT	文献数	3	コード	Ozkurt 2012 Ardic 2007 Evcik 2002 Donmez 2005																																																														
モデル	ランダム効果	方法	分散逆数による重みづけ																																																																
効果指標	平均値差	統合値	-0.78[-1.13,-0.43] p<0.0001																																																																
Forest plot	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">Study or Subgroup</th> <th colspan="2">Experimental</th> <th colspan="2">Control</th> <th colspan="2">Std. Mean Difference</th> <th colspan="2">Std. Mean Difference</th> </tr> <tr> <th>Mean</th> <th>SD</th> <th>Total</th> <th>Mean</th> <th>SD</th> <th>Total</th> <th>Weight</th> <th>IV, Random, 95% CI</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ardic 2007 BT-MW</td> <td>52.81</td> <td>11.97</td> <td>12</td> <td>61.49</td> <td>8.09</td> <td>9</td> <td>15.1%</td> <td>-0.79 [-1.70, 0.11]</td> </tr> <tr> <td>Evcik 2002 BT-MW</td> <td>12.8</td> <td>26.3</td> <td>22</td> <td>46.6</td> <td>42.03</td> <td>20</td> <td>29.9%</td> <td>-0.96 [-1.60, -0.31]</td> </tr> <tr> <td>Dönmez 2005 BT-MW-SPA</td> <td>32.25</td> <td>14.65</td> <td>16</td> <td>47.3</td> <td>13.85</td> <td>13</td> <td>20.1%</td> <td>-1.02 [-1.81, -0.24]</td> </tr> <tr> <td>Özkurt 2012 BT-MW-SPA</td> <td>43.1</td> <td>16.45</td> <td>21</td> <td>51.43</td> <td>16.83</td> <td>24</td> <td>34.9%</td> <td>-0.49 [-1.09, 0.10]</td> </tr> <tr> <td>Total (95% CI)</td> <td></td> <td></td> <td>71</td> <td></td> <td></td> <td>66</td> <td>100.0%</td> <td>-0.78 [-1.13, -0.43]</td> </tr> </tbody> </table> <p>Heterogeneity: Tau² = 0.00; Chi² = 1.56, df = 3 (P = 0.67); I² = 0% Test for overall effect: Z = 4.36 (P < 0.0001)</p>					Study or Subgroup	Experimental		Control		Std. Mean Difference		Std. Mean Difference		Mean	SD	Total	Mean	SD	Total	Weight	IV, Random, 95% CI	Ardic 2007 BT-MW	52.81	11.97	12	61.49	8.09	9	15.1%	-0.79 [-1.70, 0.11]	Evcik 2002 BT-MW	12.8	26.3	22	46.6	42.03	20	29.9%	-0.96 [-1.60, -0.31]	Dönmez 2005 BT-MW-SPA	32.25	14.65	16	47.3	13.85	13	20.1%	-1.02 [-1.81, -0.24]	Özkurt 2012 BT-MW-SPA	43.1	16.45	21	51.43	16.83	24	34.9%	-0.49 [-1.09, 0.10]	Total (95% CI)			71			66	100.0%	-0.78 [-1.13, -0.43]
Study or Subgroup	Experimental		Control		Std. Mean Difference		Std. Mean Difference																																																												
	Mean	SD	Total	Mean	SD	Total	Weight	IV, Random, 95% CI																																																											
Ardic 2007 BT-MW	52.81	11.97	12	61.49	8.09	9	15.1%	-0.79 [-1.70, 0.11]																																																											
Evcik 2002 BT-MW	12.8	26.3	22	46.6	42.03	20	29.9%	-0.96 [-1.60, -0.31]																																																											
Dönmez 2005 BT-MW-SPA	32.25	14.65	16	47.3	13.85	13	20.1%	-1.02 [-1.81, -0.24]																																																											
Özkurt 2012 BT-MW-SPA	43.1	16.45	21	51.43	16.83	24	34.9%	-0.49 [-1.09, 0.10]																																																											
Total (95% CI)			71			66	100.0%	-0.78 [-1.13, -0.43]																																																											
Funnel plot	コメント:																																																																		
その他の解析	行っていない			コメント:																																																															
<input type="checkbox"/> メタリグレーション																																																																			
<input type="checkbox"/> 感度分析																																																																			

P	線維筋痛症	I	温泉療法																																																																																												
C	非温泉療法	O	Tender Point Count																																																																																												
研究デザイン	RCT	文献数	3																																																																																												
			コード																																																																																												
			Ozkurt 2012 Ardic 2007 Evcik 2002 Yurtkuran 1996 Donmez 2005																																																																																												
モデル	ランダム効果	方法	分散逆数による重みづけ																																																																																												
効果指標	平均値差	統合値	-0.83[-1.42,-0.24] p=0.006																																																																																												
Forest plot	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">Study or Subgroup</th> <th colspan="3">Experimental</th> <th colspan="3">Control</th> <th rowspan="2">Weight</th> <th colspan="2">Std. Mean Difference</th> <th colspan="2">Std. Mean Difference</th> </tr> <tr> <th>Mean</th> <th>SD</th> <th>Total</th> <th>Mean</th> <th>SD</th> <th>Total</th> <th>IV, Random, 95% CI</th> <th>IV, Random, 95% CI</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ardic 2007 BT-MW</td> <td>11.42</td> <td>3.12</td> <td>12</td> <td>13.89</td> <td>2.32</td> <td>9</td> <td>17.1%</td> <td colspan="2">-0.84 [-1.75, 0.07]</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>Evcik 2002 BT-MW</td> <td>5.9</td> <td>12.7</td> <td>22</td> <td>12.7</td> <td>10.3</td> <td>20</td> <td>21.8%</td> <td colspan="2">-0.57 [-1.19, 0.05]</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>Yurtkuran 1996 BT-MW</td> <td>5</td> <td>2.68</td> <td>20</td> <td>4.9</td> <td>2.68</td> <td>20</td> <td>21.8%</td> <td colspan="2">0.04 [-0.58, 0.66]</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>Dönmez 2005 BT-MW-SPA</td> <td>10.75</td> <td>3.75</td> <td>16</td> <td>15.25</td> <td>2.07</td> <td>13</td> <td>18.3%</td> <td colspan="2">-1.40 [-2.23, -0.57]</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>Özkurt 2012 BT-MW-SPA</td> <td>12.5</td> <td>3.5</td> <td>21</td> <td>16.5</td> <td>1.5</td> <td>24</td> <td>21.0%</td> <td colspan="2">-1.50 [-2.17, -0.83]</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>Total (95% CI)</td> <td colspan="3">91</td> <td colspan="3">86</td> <td>100.0%</td> <td colspan="2">-0.83 [-1.42, -0.24]</td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table> <p>Heterogeneity: Tau² = 0.32; Chi² = 13.68, df = 4 (P = 0.008); I² = 71% Test for overall effect: Z = 2.76 (P = 0.006)</p> <p style="text-align: center;">-2 -1 0 1 2 Favours [experimental] Favours [control]</p>			Study or Subgroup	Experimental			Control			Weight	Std. Mean Difference		Std. Mean Difference		Mean	SD	Total	Mean	SD	Total	IV, Random, 95% CI	IV, Random, 95% CI	Ardic 2007 BT-MW	11.42	3.12	12	13.89	2.32	9	17.1%	-0.84 [-1.75, 0.07]				Evcik 2002 BT-MW	5.9	12.7	22	12.7	10.3	20	21.8%	-0.57 [-1.19, 0.05]				Yurtkuran 1996 BT-MW	5	2.68	20	4.9	2.68	20	21.8%	0.04 [-0.58, 0.66]				Dönmez 2005 BT-MW-SPA	10.75	3.75	16	15.25	2.07	13	18.3%	-1.40 [-2.23, -0.57]				Özkurt 2012 BT-MW-SPA	12.5	3.5	21	16.5	1.5	24	21.0%	-1.50 [-2.17, -0.83]				Total (95% CI)	91			86			100.0%	-0.83 [-1.42, -0.24]			
Study or Subgroup	Experimental				Control			Weight	Std. Mean Difference			Std. Mean Difference																																																																																			
	Mean	SD	Total	Mean	SD	Total	IV, Random, 95% CI		IV, Random, 95% CI																																																																																						
Ardic 2007 BT-MW	11.42	3.12	12	13.89	2.32	9	17.1%	-0.84 [-1.75, 0.07]																																																																																							
Evcik 2002 BT-MW	5.9	12.7	22	12.7	10.3	20	21.8%	-0.57 [-1.19, 0.05]																																																																																							
Yurtkuran 1996 BT-MW	5	2.68	20	4.9	2.68	20	21.8%	0.04 [-0.58, 0.66]																																																																																							
Dönmez 2005 BT-MW-SPA	10.75	3.75	16	15.25	2.07	13	18.3%	-1.40 [-2.23, -0.57]																																																																																							
Özkurt 2012 BT-MW-SPA	12.5	3.5	21	16.5	1.5	24	21.0%	-1.50 [-2.17, -0.83]																																																																																							
Total (95% CI)	91			86			100.0%	-0.83 [-1.42, -0.24]																																																																																							
Funnel plot	コメント:																																																																																														
その他の解析	行っていない		コメント:																																																																																												
<input type="checkbox"/> メタリグレーション																																																																																															
<input type="checkbox"/> 感度分析																																																																																															